

第 1 章 施設設計標準

目次

1. 目的.....	1
2. 現状と課題.....	1
3. 施設設計標準の策定.....	2
3-1 施設設計標準の取りまとめ.....	2
3-2 施設設計標準の構成.....	3
4. 今後の課題.....	4

1. 目的

北海道大学施設設計標準は、施設整備における現状と課題を具体的に把握し、キャンパスの統一的な整備方針として、施設利用者の要望に配慮しつつ、世界的水準の教育・研究を支える創造的な舞台として諸活動を支援する機能を確保し、施設の質の向上を図ることを目的として策定する。

2. 現状と課題

北海道大学のこれまでの施設整備の実施プロセスとして企画・立案、基本計画、基本設計、実施設計施工及び運用の過程で見えてくる問題点は以下のとおりである。

- ・担当者によって統一されない設計

設計の方針、施工方法、維持管理等の考え方が担当者によりばらつきが生じている。

- ・失敗の繰り返し

施設利用者の不満が残る施設の問題が解決されないまま積み残しとなり、繰り返されて施工されることがある。

- ・読みづらい事業コスト

担当者によって設計方針にばらつきがあり、事業コストの見当がつかず事業計画のロスとなっている。

- ・設計事務所への基本方針の周知不足

定まらない方針は設計事務所への指示遅れ、については十分な設計期間を確保できない状態となっている。

結果として、変わらないユーザーの不満が長年にわたって解決されないまま残ることとなる。

3. 施設設計標準の策定

3-1 施設設計標準の取りまとめ

北海道大学施設設計標準は、現状と課題を踏まえ、以下の取り組みを行う。

- ・ 新築後あるいは大規模改修後、一定期間施設の利用後に利用者からの意見聴取
- ・ 施工後、施設の評価が高い事例(好事例)や不満事例の蓄積と活用
- ・ 統一的な設計方針・手法をまとめた大学の設計手順書のまとめ
- ・ 北国の地域性等を考慮した手法、コスト等を考慮した設計手順書のまとめ

(1)設計標準の策定

設計担当者によるぶれや迷いをなくし、基本的な事項について設計の標準をまとめ、品質の高い施設設計を実現するための『北海道大学施設設計標準』を策定する。

これらは、ユーザーへの明確な説明資料となり得るほか、コストマネジメントと共に品質の確保が図られることとなる。

(2)標準仕上表の策定

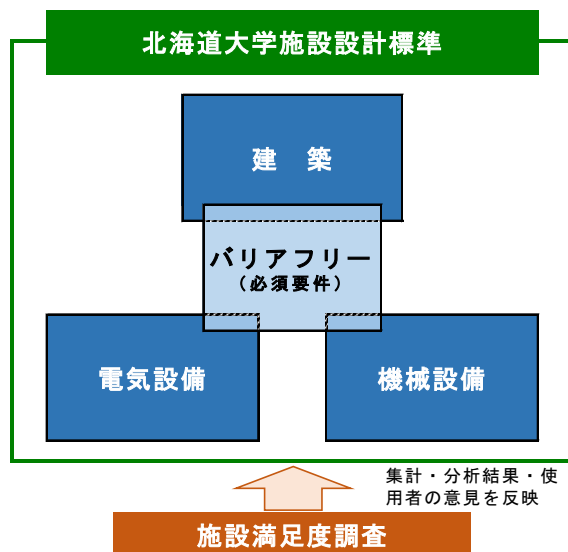
施設の設計業務において、利用者へのヒアリングの簡素化、説明時間短縮及びオーダーメイド化の縮小を図り、設計業務の効率化を目指した『標準仕上表』を策定する。

本仕上表は、前項の設計標準と同様に施設満足度調査^{※1}によって得られた問題点等を活かした取りまとめを行う。

3-2 施設設計標準の構成

施設設計標準は、建築、電気設備及び機械設備について、施設利用者に品質(満足度)の高い施設を提供するために、施設の問題点や課題を整理し、設計者等に適切な設計情報を提供すること、施設の利用者等に設計の具体的な考え方及びその手法を示すことを目的としている。さらに、建築物等の維持管理、利用する人々に対して必要な情報を提供するものである。

また、バリアフリー^{※2}は、建築、電気設備及び機械設備の設計要件を検討する際の必須要件として位置づけられる。



※1 施設満足度調査

施設満足度調査実施マニュアル(平成 27 年度策定)

(施設利用者に品質(満足度)の高い施設を提供するために、「施設満足度調査実施マニュアル」を制定し、「施設満足度調査」を行い、「アンケート調査結果の集計分析」や「施設利用者ヒアリング及び現地調査」で明らかになった問題点や課題を整理)

※2 バリアフリー

北海道大学施設設計標準(バリアフリー編)(平成 29 年度策定)

(障害がある多様な施設利用者にとって使いやすいバリアフリー施設の計画と設計に関するガイドライン)

4. 今後の課題

(1) 施設設計標準の不断の見直し

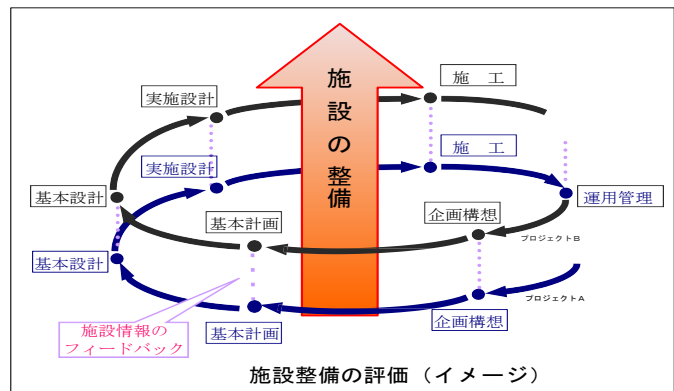
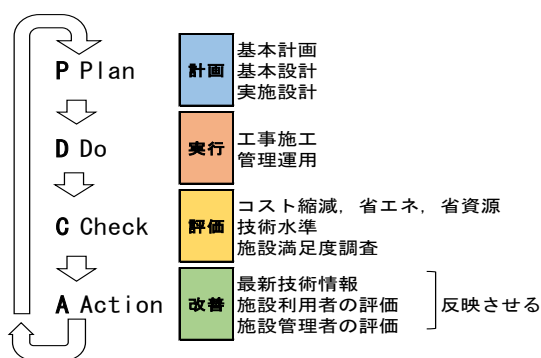
施設設計標準は、その時の技術水準やコストも含め内容を確認することが必要である。

省エネ、省資源、コスト縮減や最新技術の導入などの観点から定期的なチェック評価による見直し作業が必要である。検討結果は、施設設計標準の改定版として活用されるような仕組みとし、常に組織的に継続性をもって取り組む必要がある。

(2) 事業の評価とフィードバック

施設整備事業はPDCAサイクルが重要である。施設整備の評価は、常に次の改善へつなぐシステムを構築する。事後評価の促進やスパイラルアップの仕組みの構築により、着実に高品質な施設整備等を実施する。

施設設計標準は、大学内外の変化に対応して記載された事項と現実との不具合が生じた際には、速やかにその事項の再検討に入り適切な見直しをする仕組みとする必要がある。



(3) 利用者参画の必要性(施設満足度調査)

施設利用者の評価(満足、不満足事項)を適切に判断して改善していくためには、施設満足度調査を継続することが重要である。これまでの学内整備においては、利用者が参画するための枠組みが明確にされていなかった。部局等の担当者が、個別に相談しながら、問題解決を図ってきた経緯がある。多様な利用者の声を詳細に聞く場を設け、さらに有意義な整備のための情報を得ることが重要であり、組織的に継続性をもって取り組む必要がある。

(4) その他

施設設計標準の採用による予算と工事費(コスト)の検討

おわりに

今後、最も重要なことは、施設の設計者、管理者の立場で検討を進め、施設の利用者目線で満足のいく施設づくりを継続的に検討し、着実に品質の高い施設整備を進めることである。